

## 第1回 教科教育担当者会 記録(案)

2018年7月31日(火) 10:45から12:00 B202教室

出席：鈴木学部長、上山、董、清水、Victor 桑原、山内豊、久保田、内藤、吉田

### 1 学部長挨拶

### 2 趣旨説明

2019年の新カリキュラムの実施に向けて各教科担当間の情報交換をする。

### 3 協議

#### 1) 各教科の学習指導案と模擬授業について

##### ○国語

教材論を中心に内容について取り上げる。第12回までは、物語文、説明文を中心に発問の立て方を扱う。第13回・14回で模擬授業に取り組む。グループで学習指導案は本時案を作成する。

##### ○理科

理科教育の授業は、教職大学院の大関先生が担当している。理科概論等は内容を中心に取り上げるが、内容と学習指導要領との関連について取り扱う。

##### ○算数

第10回の授業までは、領域ごとの内容について取り扱う。第14回、15回の授業で、模擬授業に取り組む。

##### ○図工

作品作りに時間がかかるため、模擬授業に使う時間は、2回程度である。今期は第9回・10回の授業を模擬授業に当てた。ジグソー方式を取り入れ、グループごとに半数の学生が授業をし、残り半数の学生は、他のグループに出かけ、授業の様子を見る。時間は15分～20分で、様子をビデオに記録する。

##### ○体育

常に体育館を使える訳ではないので、模擬授業は難しい。グループで運動のイメージをして運動のための工夫を考える。第9回・10回・11回は、体育館を使い、実際に運動に取り組んだ。技能の評価、思考の評価をどのようにするかが課題である。

##### ○音楽

前半は指導領域の内容を中心に取り組み、後半は、指導案の書き方と模擬授業に取り組む。希望したグループは、模擬授業に組み込み、発表する。学習指導案の検討に時間をかける。

第12回・13回の授業で学習指導案の作成グループごとの発表に取り組む。

##### ○英語

文部科学省のガイドブック、教科書、デジタル教科書等を活用して授業を進める。

第1回から第3回は、英語の習得と発達との関係、第4回から11回は、4人のグループを作り、マイクロティーチングを行い、発音とスペリングを取り上げる。第12回から13回に学習指導

案を作成する。

## 2) 全体協議

- ・社会や理科は、学年が3年から4年に限られるが、国語、算数は、6学年分あり、内容が多く詳しい単元の計画まで取り上げられない。授業における発問を中心に扱っている。
- ・図工、音楽、体育時間的、場所の制約があり、充分には模擬授業に取り組めない。物理的に不可能な面がある。
- ・体育の水泳は、大学にプールが無いので、学内で行うことができない。市営プールにグループごとに通い、水泳の実習を行っている。
- ・学習指導案の形式や板書などについては、教育方法学等の授業で取り上げてもらえると、教科教育の授業との役割分担ができる。
- ・各教科の指導案の形式を資料として持ち寄った。どのように形式をまとめるかは、今後検討する。

## 4) 次回 2018年10月18日(木) 16:40より B202教室

- ・学習指導案の作成と模擬授業の今後の方向性

## 第2回 教科教育担当者会 記録(案)

2018年10月18日(木) 16:40~18:00 B202 教室

出席:鈴木学部長、久保田、山内豊、Victor 桑原、董、内藤、上山、吉田

### 1 話題提供

山内 豊「アクティブ・ラーニングに基づくグループ発表に対する

オンライン相互評価システムの開発」

(2018年9月28日日本教育工学会における舟生日出男先生との共同発表資料による)

### 質疑

(1) このシステムで即座に評価を見ることができるのは、大変有効だと思う。教師による評価は、1人が評価するのか。

○今回は山内1人で評価したが、複数の評価をすることもできる。

(2) 学生の英語の能力にはかなりの差があり、TOEICの低い学生は、英語による発表の理解が十分ではないので、このような方法を必ずしも有効と思わないのではないか。ある程度学生を選抜してから、授業をすることも考えられる。

○教育学部と文学部の学生を比較すると、必ずしも文学部の学生のTOEICの得点が高いとも限らないが、英語の能力によって、理解の度合いが異なることはあり得る。

(3) 学習指導案の書き方を相互評価することもできると考えられる。

○文字ベースのものを評価する方が可視的で、評価しやすい面がある。今回示した方法は、口頭発表のみならず多様な場面で活用できる。

### 2 学習指導案と模擬授業について

#### 討論

(1) 国語の場合、第1学年から第6学年までの取り扱う内容が多く、どうしても学習指導案を書く時間を十分に取ることができない。内容の学習に時間を割かざるを得ない。

(2) 理科も履修学生が、80人いるので、少人数指導は難しい。模擬授業や学習指導案の書き方を中心に扱う特別講義があると良い。

(3) 授業実践クラブのような活動を課外で設けて、学生が取り組むのはどうか。

例えば、「授業実践クラブ(仮称)」など。

(4) 本来は、カリキュラムの中に学数指導案の書き方や模擬授業を取り上げる授業を位置付けたい。例えば、教育実習の事前講義などで系統的に指導できると良い。時間設定が難しい場合は、課外で設定するのも一案。

(5) 学習指導案の形式は、東京都教師養成塾の学習指導案の形式を例として取り上げている。形式が整っていて、学生にも分かり易い。

(6) ある程度学習指導案の項目や内容、授業の評価の観点等について、共通理解が持てる方が良い。

(7) 板書計画やチョークの使い方等についても取り上げたい。

### 3 次回に向けて

- (1) 指導案の形式についての提案 ー中国と日本の比較ー 董先生
- (2) 授業評価の観点についての提案 ー演習での取り組みを例にー 上山先生
- (3) 各教科のシラバス、指導内容については引き続き、情報交換を行う。

以上

### 第3回 教科教育担当者会 記録(案)

2018年12月21日(金) 16:40~18:00 B202教室

出席:鈴木学部長、上山、久保田、鈴木詞雄、大関、董、山内豊、吉田

○学部長挨拶 今回より教職大学員の大関先生、鈴木詞雄先生に参加していただくことになりました。

協議

#### 1 学習指導案の形式と項目

○董先生より音楽科の学習指導案についての提案(別紙プリント参照)

○学習指導案の項目	
1 学年・組・日時	8 指導計画
2 単元名	9 評価規準
3 指導内容	10 本時の展開
4 題材名	(1) ねらい
5 題材の目標	(2) 重点
6 教材曲	(3) 難点
7 指導に当たって	(4) 本時の展開
(1) 教材観	
(2) 子ども観	
(3) 指導観	
(4) 重点	
(5) 難点	

(1) この提案の学習指導案で内容的には充分で、学習指導案のモデルとなる。

(2) 「子ども観」については、学生だと想定するのが難しい。

しかし、東京都の採用試験でも子ども観を想定して書くことが求められる。

(3) 算数教育では、学部の授業では、子ども観は省略しているが、教職実践演習の授業では、「できる子」「できない子」に分かれて子どもの実態を考え、子ども役を担当する。

(4) 理科では探究的学習をキーワードにして、単元の目標と単元の計画を考えることが授業の中心で、模擬授業を取り入れる余裕がない。

(5) 石丸先生の国語科教育の授業では、グループに分かれ、一斉にマイクロティーチングを実施している。このような方法も一つのアイデアだと思う。

#### 2 模擬授業の評価の観点

○上山先生より模擬授業の評価の観点についての提案(別紙プリント参照)

(1) 評価の観点は、教材研究の進め方、模擬授業の位置付け等によって異なる。評価の観点の

項目があまりに多すぎると、かえって使いづらい。

(2) 音楽では、単元構成が適切か、分析力を高められるか、授業へのコメントが書けるか等を課題としている。コメントで代案を入れるほど詳しく書く学生も見られる。

(3) 模擬授業の評価の観点のみならず、教師力の全体像を示すことも必要だと思う。

(4) 英語では、マイクロティーチングの振り返りを Google ドライブにのせる形で行っている。フィードバックの項目は「良かった点」「改善すべき点」「改善案」で文章で記述する。

(5) 体育では、45分の模擬授業を実施する。学生に評価を書かせるが、概ね好意的な評価が多く見られる。時には師範授業を見ることも必要かもしれない。

### 3 各教科の取り組み・その他

(1) 子どもの問いを活かした理科の授業を目指しているが、創価大学としての「目指す教師像」創大モデルがあると良い。

(2) 学生には、教材を選んで授業を作り上げることが面白いことだと感じてもらいたい。一人で作ることも、共同で作ることもそれぞれ意義がある。

(3) 教育実習に行く事前に課題を設定して実習に行くことができることが望ましい。そのためには、教育実習の事前指導の充実が必要である。

大学によっては、教育実習の事前指導を時間割に位置付け、学期を通して実施している。

(4) 模擬授業クラブ(仮称)を組織し、学生が主体的に模擬授業について学ぶ機会を設けたい。

以上

○次回 2019年1月30日(水) 13:30より B202教室

○模擬授業クラブ(仮称)の活動について

○学習指導案の形式

○その他・今後の予定

図1 模擬授業の評価の観点(上山案)

観点1	観点2	観点3	観点4	備考	
基礎力 (教師個人に関する要素:一人でもトレーニング可)	話し方	声	大きさ 速さ	明瞭さ	
		非言語	表情・視線 身振り・立ち方・移動	(真顔・とぼける・笑顔等の使い分け)(手元ばかり見ない・教科書と児童への目配り) (注目を集める等)(動線・黒板への正対・机間巡視)	
		板書	文字 書き順 工夫	きれいさ 構造化 色使い	(縦横・大きさ(1行あたりの文字数)・とめはねはらい:チョークの持ち方) (採用試験対策) (対比) (色分け)
	授業展開力(児童・生徒の反応を見ながら行うもの:模擬授業のねらい)	応答		価値づけ 対応 振り 沈黙	(ほめるより認める) (予想外の返答への対応) (リフレクティブトス) (待つことの大切さ)
			指示・説明	教科書のページ ノートの書き方	授業内容に関する指示や説明の分かりやすさ
				指名の仕方	挙手(ハンドサイン含)(意図的指名-机間指導)・順番(複数名同時・少数派から等)・視野(つぶやき・反応を拾う)※視線
教材研究力 (授業の構想に関する要素:各教科の理論との関連が強い)	発問		問う内容 問い方 活動	考えてみた結果(おもしろさ) 形式 楽しさ・適切さ(書く・話す・話し合う・動作にする等)	
		ねらい	教材分析 めあて 導入との連関 提示のタイミング	(授業準備・教材研究)	
	その他		導入		学習者の興味関心を高める導入ができたか
		話し合い		話し合いやペアワークのタイミング・方法	
教具			ワークシート、教具等の開発、貼り物		

## 第4回 教科教育担当者会 記録

2019年1月30日(金) 13:30~15:00 B202教室

出席:鈴木学部長、上山、鈴木詞雄、大関、Victor 桑原、清水、内藤、吉田

○学部長挨拶

協議

1 模擬授業クラブ(仮称)の実施計画について 上山

○上山先生より模擬授業クラブ(仮称)についての提案があった。(別紙プリント参照)

○上山ゼミで試行した結果を踏まえ、次のような計画で実施したらどうか。

(1) 対象 学部3年 人数15人程度

(2) 運営 学生主体で。

(3) 期間 4月に募集。5月から7月の試験期間の前まで。

○模擬授業の実施と教材研究のバランスが大切だと思える。

○模擬授業の回と教材研究の回を分けて設定する方が良い。1週目は教材研究、2週目が模擬授業。

○英語のペガサスクラブのように、目標を設定すると、意欲が高まる。

○英語の様に数値目標を示すことはできないが、参加した学生に修了証を出すことや、模擬授業の様子をDVDに記録し、授業者にフィードバックすることは考えられる。

○教職キャリアセンターの方々や教職大学院のリーダーコースの方々との連携ができれば良い。

○ポータルサイト上に模擬授業クラブの広場を作り、情報の交換ができると役立つ。

○模擬授業専用の模擬教室があると良いが、BA棟に空きスペースがある。

○黒板があるのは、B203教室なので、そこを活用してはどうか。

○オリエンテーションのどこかで、学部3年生に紹介し、情報を発信する方が良い。

○模擬授業クラブ(仮称)の名称案

・Teaching Practicum Club

・Teachers Education Club

・Lesson Study Club 等 後日検討する。

○DVD等の予算が必要だが、学部の予算を使用できるか。

2 学習指導案の形式について

○東京都教師養成塾の学習指導案の形式をモデルとするのが、適切と考えられる。

3 その他 特に無し。

4 次回

2019年3月13日(水) 10:00より B202教室

内容 ・模擬授業クラブの計画(続き) 上山先生

